

令和6年度 医学部 F D ・ S D

(第46回 杏林医学会例会)

対象：医学部・保健学部教職員、医学部・保健学部学生、大学院生等

基礎研究と臨床の連携促進を目指して

日時 令和6年 12月17日 (火) 17時から

場所 大学院講堂 (三鷹キャンパス)

講師 高橋 伸一郎 先生

東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

講師

宮本 崇史 先生

筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科 助教

基礎研究と応用研究のリエゾンで人類の未来を考える

AI/DX Nutritionを用いた未来型食品開発のすすめ

高橋 伸一郎 (東京大学大学院 農学生命科学研究科)

人類の活動が引き起こした異常気象、生物多様性の喪失、そしてパンデミックなど、人類の生存を脅かす地球上の課題が日々積み重なっています。『食』の生産は、地球に大きな負荷をかけていることを広く知られていますが、これを止めるわけにはいきません。これから「人類」という生物は、地球上でどのように生きていったら良いのか、私たちが提案している『次世代栄養学』を中心に、この難しい問いを一緒に考えてみませんか。

医・工・情報学の融合による学際的な医学研究の創出

宮本 崇史 (筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科)

医療の高度化と病態の複雑化に伴い、医学・工学・情報学の融合的アプローチが不可欠となっています。本発表では、これら異分野の技術を統合することで実現した、1細胞オミクスやラベルフリーイメージング、デジタルステイン、生体分子デバイスなど、細胞レベルでのマルチモーダルな情報を可視化・操作する革新的技術を紹介します。さらに、このような学際的な基礎研究が次世代医療の創出に果たす重要な役割について考察を深めます。

主催：医学部教員・職員能力開発室 共催：杏林医学会